

国際文化学部

【2024 年度大学評価総評】

国際文化学部は各年度目標について高い成果を達成しており評価できる。2023 年度は中期目標の 2 年目であり、諸課題に対する改善策が検討・実施された。学生モニター制度などを積極的に利用し、新たな初年次教育策に関する具体的な取り組みが実施され成果についても検証されたことは評価できる。国際文化情報学会において、授業や演習単位で行われる学習成果発表が実施され、学会のウェブサイトで研究成果が共有されたことは評価できることから継続的な取り組みを期待したい。2025 年度から実施予定の 3 年次編入に向けた準備が着実に進捗している点も評価できる。引き続き学生の学びやすさを意識した教育制度の構築を期待したい。

課題となっている大学院との連携については、学部生の研究科授業の見学や他大学からの進学者向け履修制度を内部進学者にも開放するなど改善が行われている。また、教員の教育能力の向上及び研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化を図るための組織的な取り組みである、学部主催の FIC オープンセミナーが年に 5 回開催されているが、本取り組みの一部を研究科と合同企画することで大学院との連携を深めている点は評価できる。履修プログラムやカリキュラムの改善に向けた取り組み、教員と学生の交流については引き続き内容を充実させていきたい。社会貢献や社会連携に関する成果を教授会で共有できる仕組みを作ったことは評価できる。共有された成果を踏まえて国際文化学部の理念に相応しい社会貢献活動が継続されていくことを期待したい。

SA や留学プログラムについては、対応する教職員の負担増が懸念されているが、円安等による学生の経済的負担も大きくなっていることから、対応策を検討していただきたい。

大学基準協会の第 4 期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認	
2024 年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。

【2024 年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準 1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい

【根拠資料】	
理念・目的 (url: https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/rinen/)	
学部長メッセージ (url: https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/message/)	
法政大学学則 別表 11 (url: https://www.hosei.ac.jp/application/files/9517/1047/1722/23.211.pdf)	
2024年度国際文化学部パンフレット (https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=3942400-0-96&cs=1)	
2024年度SAガイダンス資料 (url: https://www.hosei.ac.jp/kokusai/jukensei/goukakusya/2024/)	
2024年度新入生ガイダンス資料 (url: https://www.hosei.ac.jp/kokusai/jukensei/freshman/2024/)	
2024 年度国際文化学部履修の手引き (url: https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo0MjgyZ9&detailFlg=1&pNo=1)	
法政大学国際文化学部ホームページ (url: https://www.hosei.ac.jp/kokusai/)	

基準 2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質

保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部において、学部長及び教授会・委員会等の役割や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部において、質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
<p>法政大学国際文化学部教授会規程 教授会の申し合せについて（2003年4月15日施行） 法政大学国際文化学部教授会規程第6条および第7条に関する申し合わせ（2020年3月10日施行） 2023年度 中期目標・年度目標達成状況報告書（国際文化学部） 教育質保証委員会規程（制定 2013年2月19日、改正 2015年3月10日） 2024年度各種委員の職務内容について（第12回国際文化学部教授会資料（2024年3月25日）） 2023年度「自己点検・評価シート」「中期目標・年度目標・達成指標」に係る内部質保証について（2023年度第2回国際文化学部教授会資料（2023年5月16日）） 国際文化学部の将来構想に関連する意見聴取体制について（案）（2023年度第11回国際文化学部教授会資料（2024年3月5日）） 国際文化学部の将来構想に関連する意見聴取体制構築について（2023年度第12回国際文化学部教授会資料（2024年3月25日））</p>	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
<p>ディプロマ・ポリシー（url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/policy/diploma/） カリキュラム・ポリシ（url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/policy/curriculum/） 2024年度国際文化学部履修の手引き（url:https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo0MjgyMzZ9&detailFlg=1&pNo=1） 法政大学国際文化学部ホームページ（url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/） 2024年度国際文化学部パンフレット（url:https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/） 2024年度 国際文化学部へ合格された皆さんへ（url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/info/article-20240111170448/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54） 2024年度新入生ガイダンス資料（url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/jukensei/freshman/2024/） 【国際文化学部】2024年度 在学生向け情報まとめ （url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/zaigakusei/2024zaigakusei-info/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54） 国際文化学部で学ぶこと（url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/tokushoku/） （国際文化学部）2024年度SAガイダンス（url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/jukensei/goukaku-sya/2024/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54） 2024年度SAガイダンス資料（url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/jukensei/goukaku-sya/2024/）</p>	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているこ

と。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
2024年度国際文化学部パンフレット (url:https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/) 2024年度国際文化学部履修の手引き (url:https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo0MjgyMzZ9&detailFlg=1&pNo=1) 国際文化学部カリキュラムマップ (url: https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/2024_FIC_curriculum-map.pdf) 国際文化学部カリキュラムツリー (url: https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/2023_FIC_curriculum_tree.pdf) 国際文化学部シラバス (url:https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2024&gakubueng=AG&t_mode=pc) 法政大学 シラバス WEB 入稿管理システム教員向け入稿ガイド 学部・大学院・通信教育部（スクーリング）共通 (url: https://syllabus.hosei.ac.jp/help/hosei_websyllabus_usersguide.pdf) 【国際文化学部】2024年度 在学生向け情報まとめ (url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/zaigakusei/2024zaigakusei-info/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54) 2024年度演習選抜について (url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/info/article-20231214125351/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54) 2024年度国際文化学部新入生スタートアップサイト (url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/jukensei/freshman/2024/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54) 2024年度新入生（1年次）の単位認定について (url: https://hosei-keiji.jp/ic/2024/1st/nintei) 教員オフィスアワー (url:https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/1517/1098/3506/2024_office_hour_.pdf)	

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3⑤学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応を行っていますか。	はい
4.3⑥単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑦シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑧授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達	はい

成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等などの措置を行っていますか。	
【根拠資料】	
卒業要件 url:https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/sotsugyo_yohken/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54 国際文化学部『履修の手引き』（2024年度版） url:https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo0MjgyMzZ9&detailFlg=1&pNo=1 講義概要（シラバス） url:https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?gakubueng=AG 国際文化学部で学ぶこと url: https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/tokushoku/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54 【国際文化学部】2024年度 在学生向け情報まとめ url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/zaigakusei/2024zaigakusei-info/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54 2024年度演習選抜について url: https://www.hosei.ac.jp/kokusai/info/article-20231214125351/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54 ゼミ紹介 url:https://www.hosei.ac.jp/kokusai/90700/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54 2024年度クラス指定科目について（2024年度2年生対象） url:https://hosei-keiji.jp/ic/2024class/ 2024年度コース変更に関するご案内（対象：3年生進級者） url:https://hosei-keiji.jp/ic/course/2024/3rd 2024年度国際文化学部専門科目の授業実施方針について（2023年度第6回国際文化学部教授会報告資料（2023年10月17日）） 「シラバス作成ガイドライン」の改訂について（2023年度第7回国際文化学部教授会資料（2023年11月21日）） 2024年度シラバスの作成について（2023年度第8回国際文化学部教授会報告資料（2023年12月12日）） 2024年度シラバスの作成ガイドライン（2023年度第8回国際文化学部教授会報告資料（2023年12月12日））	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
2023年度 進級・卒業判定について（第10回国際文化学部教授会資料（2024年2月20日）） SA単位認定について（シェフィールド大学）（第10回国際文化学部教授会資料（2024年2月20日）） SA単位認定について（リーズ大学）（第10回国際文化学部教授会資料（2024年2月20日）） SA単位認定について（カリフォルニア大学デイヴィス校）（第10回国際文化学部教授会資料（2024年2月20日）） SA単位認定について（ミシガン州立大学）（第10回国際文化学部教授会資料（2024年2月20日）） SA単位認定について（ボストン大学）（第10回国際文化学部教授会資料（2024年2月20日）） SA単位認定について（トレント大学）（第10回国際文化学部教授会資料（2024年2月20日）） SA単位認定について（ヨーク大学）（第10回国際文化学部教授会資料（2024年2月20日）） SA単位認定について（ブロック大学）（第10回国際文化学部教授会資料（2024年2月20日）） SA単位認定について（ディーキン大学）（第10回国際文化学部教授会資料（2024年2月20日））	

2023 年度外国語技能試験・検定試験による単位認定結果について（第 10 回国際文化学部教授会資料（2024 年 2 月 20 日））
 外国語技能試験・検定試験による単位認定制度に係る周知文（第 10 回国際文化学部教授会資料（2024 年 2 月 20 日））
 外国語技能試験・検定試験による単位認定制度 単位認定希望者リスト（第 10 回国際文化学部教授会資料（2024 年 2 月 20 日））
 2023 年度夏季短期語学研修単位認定結果について（第 10 回国際文化学部教授会資料（2024 年 2 月 20 日））
 2023 年度夏季短期語学研修による SA 単位認定制度に係る周知文（第 10 回国際文化学部教授会資料（2024 年 2 月 20 日））
 2023 年度夏季短期語学研修による SA 単位認定制度 単位認定希望者リスト（第 10 回国際文化学部教授会資料（2024 年 2 月 20 日））
 SA 単位認定について（ロイファナ・リューネブルク大学）（第 11 回国際文化学部教授会審議資料（2024 年 3 月 5 日））
 SA 単位認定について（西部カトリック大学）（第 11 回国際文化学部教授会審議資料（2024 年 3 月 5 日））
 SA 単位認定について（上海外国語大学）（第 11 回国際文化学部教授会審議資料（2024 年 3 月 5 日））
 SA 単位認定について（バルセロナ大学）（第 11 回国際文化学部教授会審議資料（2024 年 3 月 5 日））
 SA 単位認定について（韓国外国語大学）（第 11 回国際文化学部教授会審議資料（2024 年 3 月 5 日））
 2023 年度 進級・卒業判定の変更について（第 11 回国際文化学部教授会審議資料（2024 年 3 月 5 日））
 採点訂正について（第 11 回国際文化学部教授会審議資料（2024 年 3 月 5 日））
 2023 年度春学期 成績発表および成績評価調査について（国際文化学部ウェブ掲示板（2023 年 8 月 29 日））（url:https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/a46f662f74a3eb36c1849c6b37af9d36.pdf）
 2023 年度秋学期 成績発表および成績評価調査・進級再試験について（国際文化学部ウェブ掲示板（2024 年 2 月 19 日））（url:https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/2e24629c9155bd3701637289da2e1e64.pdf）

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5③学修成果可視化システム（Halo）を組織的に活用していますか。	はい
【具体的な活用事例】	
<p>各年度に実施される授業改善アンケート、入学前アンケート、卒業生アンケートとその内容や結果について例年教授会で共有、議論されている。また、学部主催による卒業生アンケートについては、例年学部演習・卒業研究運営委員会によりその内容が検討されている。</p> <p>2023 年度は、チュートリアル廃止に伴い、授業改善アンケートに追加していたチュートリアルに関する独自質問について、見直しを行った。また、廃止以降の初年次教育の柱となる国際文化情報学入門を担当する各教員および関連する各委員会向けに、その実施内容や問題点に関する初年次教育アンケートを実施し、その結果を学部教授会で共有した。</p> <p>2022 年度の授業改善アンケート、入学前アンケート、卒業生アンケートの結果を基として、2023 年 12 月 5 日に学生モニター制度を利用した学生モニターを実施、初年次教育（チュートリアル、国際文化情報学入門、情報科目）、留学制度について（SA、派遣留学その他）について学生からの意見を聴取し、今後の対応について公開した。</p> <p>法政大学学習成果可視化システム（以下、「Halo」）が導入されることに伴い、各科目の学部 DP を大学 DP に換算し、DP 値として教務システムへの登録作業を行なった。</p> <p>学部教務委員会により、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、ナンバリングの点検及び検証が実施され、その際に Halo のデータを用いた。ただし、実用上の問題点として、2023 年度現在 Halo のデータシステムが構築途上で、実装されていない機能が多く、必要なデータをダウンロードしたとして、出力（ダウンロード）したデータの各情報が記号（コード）で示されている箇所が多くあり、説明書を読みながら「データ出力コード対応表」と照らし合わせて解読可能なデータに作り直す必要がある。こうした現状に基づき、現状で取り扱い可能なデータとして、執行部アカウントより入手できる国際文化学部生の大学 DP の各項目における平均 GPA および取得単位数のレーダーチャートを確認し、学部教務委員会に提供した。大学 DP ごとの取得済み単位数とそれを表すレーダーチャートの Halo のウェブサイトのキャプチャー画像を 2023 年度第 10 回教授会（2024 年 2 月 20 日）で共有した。</p>	

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
アドミッションポリシー (url: https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/policy/admission/?auth=9abbb458a78210eb174f4bd385bcf54) 国際文化学部の入試制度 (url: https://nyushi.hosei.ac.jp/nyushi/kokusai) 受験上および修学上の配慮が必要な方へ (url: https://nyushi.hosei.ac.jp/application/files/1216/9052/6591/20230728.pdf) 2024年度外国人留学生入学試験要項 (url: https://www.guide.52school.com/export/sites/default/guidance/net-hosei-tokubetsu/gid/pdf/hosei_yoko_ryugakusei_zenki2024.pdf) 2024年度国際文化学部S A自己推薦入学試験要項 (url: https://www.guide.52school.com/export/sites/default/guidance/net-hosei-tokubetsu/gid/pdf/hosei_tokubetsu_kokubun-sa_yoko_2024.pdf) 2024年度国際文化学部分野優秀者入学試験要項 (url: https://www.guide.52school.com/export/sites/default/guidance/net-hosei-tokubetsu/gid/pdf/hosei_tokubetsu_kokubun-bunya_yoko_2024.pdf)	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
入試データ (url: https://nyushi.hosei.ac.jp/nyushi/data) 2024年度入学者手続き状況(全経路 手続き完了者 4/3 最終) (2025年度第1回 入試委員会資料 p.6)	

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上1.20未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①学部の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい

6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
<p>大学教員就業規則 (url:https://www.hosei.ac.jp/kyoshokuin/kitei/doc/rule/273.html) 国際文化学部専任教員の責任授業回数について (2016年12月20日制定) 学部教員給与規程 (url:https://www.hosei.ac.jp/kyoshokuin/kitei/doc/rule/152.html) 教員の資格に関する規程 (1999年度第6回教授会 (1999年10月19日) 承認、2006年度第4回教授会 (2006年7月4日) 一部追加承認、2008年度第7回教授会 (2008年11月11日) 一部改正承認、2013年度第10回教授会 (2014年1月15日) 一部改正承認)</p>	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
<p>法政大学国際文化学部教授会規程 国際文化学部専任教員募集についての内規 (1999年度第6回教授会 (1999年10月19日) 承認、2006年度第9回教授会 (2006年12月12日) で一部改正承認、2014年度第13回教授会 (2015年3月25日) で一部改正承認、2020年度第11回教授会 (2021年3月9日) で一部改正承認、2021年度第2回教授会 (2021年5月18日) で一部改正承認、2023年度第1回教授会 (2023年4月18日) で一部改正承認) 教員の昇格について (2023年度第7回国際文化学部教授会審議資料 (2023年11月21日)) 昇格に関する規約 (1999年5月11日承認、2006年12月12日一部改正承認、2018年10月16日一部改正承認、2022年6月14日一部改正承認、2022年7月19日一部改正承認) 2024年度開講科目一覧 (2023年度第9回国際文化学部教授会資料 (2024年1月23日)) 2024年度開講科目一覧の更新について (2024年度第9回国際文化学部教授会資料 (2024年1月23日)) 2023年度以降の補充人事における学部および大学ディプロマ・ポリシーへの紐づけについて (2023年度第3回国際文化学部教授会 (2023年6月13日)) 国際文化学部教授会規程の一部改正について (2024年度第8回国際文化学部教授会資料 (2023年12月12日)) 一表補充人事の担当分野について (2023年度第2回国際文化学部教授会資料 (2023年5月16日)) 専任教員の採用について (一表人事) (2023年度第7回国際文化学部教授会資料 (2023年11月21日)) 国際文化学部専任教員公募要項について (二表補充人事) (2023年度第4回国際文化学部教授会資料 (2023年7月18日)) 教員の定年延長について (2023年度第2回国際文化学部教授会資料 (2023年5月16日)) 二表補充人事について (2023年度第10回国際文化学部教授会資料 (2024年2月20日)) 二表補充人事の採用学科目について (各科目群会議からの結果報告) (2023年度第12回国際文化学部教授会資料 (2024年3月25日)) 専任教員の採用について (二表人事) (2023年度第7回国際文化学部教授会資料 (2023年11月21日)) 兼任教員採用にかかる履歴書・業績書フォーマットおよび取り扱いについて (2023年度第9回国際文化学部教授会資料 (2024年1月23日開催)) 2024年度兼任教員の採用について (学部専門科目) (2023年度第2回国際文化学部教授会資料 (2023年5月16日)) 2024年度兼任教員の採用について (学部専門科目) (2023年度第4回国際文化学部教授会資料 (2023年7月18日)) 2024年度兼任教員の採用について (学部専門科目) (2023年度第5回国際文化学部教授会資料 (2023年9月5日)) 2024年度兼任教員の採用について (学部専門科目) (2023年度第9回国際文化学部教授会資料 (2024年1月23日)) 2024年度兼任教員の採用について (学部専門科目) (2023年度第11回国際文化学部教授会資料 (2024年3月5日))</p>	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
2024年度国際文化学部履修の手引き（url: https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo0MjgyMzZ9&detailFlg=1&pNo=1 ） チュートリアル廃止に伴う「ラーニング・サポート制度」の活用について（2023年度第2回国際文化学部教授会資料（2023年5月16日）） 「ラーニング・サポート制度」を用いた新入生サポート体制について（2023年度第3回国際文化学部教授会資料（2023年6月13日）） 成績不振者との面談結果について（2023年度第7回国際文化学部教授会資料（2023年11月21日）） ピアサポーター採用について（2023年度第10回国際文化学部教授会資料（2024年2月20日）） 学生の処分について（2023年度第4回国際文化学部教授会資料資料（2023年7月18日）） 2023年度学生モニター制度実施報告書（2023年度第9回国際文化学部教授会資料（2024年1月23日））	

基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
研究活動に関する方針 （url: https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/kenkyukatsudou/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54 ） 法政大学研究倫理規定 （url: https://www.hosei.ac.jp/application/files/7616/9639/1114/regulation26.pdf ） 研究倫理審査の実施について（2023年度第4回国際文化学部教授会資料（2023年7月18日）） 国際文化学部 研究倫理審査の実施 および関連事項の通知について（2023年度第8回国際文化学部教授会資料（2023年12月12日）） 国際文化学部研究倫理委員会 審査手続きの一部修正について（2023年度第5回国際文化学部教授会資料（2023年9月5日）） 法政国際文化倫理委員会 研究倫理審査の流れ（申請手続き） （url: https://www.hosei.ac.jp/application/files/7216/9639/3328/lrinrisinsei_nagare.pdf ）	

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
2023年度末アンケート	

(2024年3月3日～3月8日実施) 自己点検に係る 2023 年度末アンケートの結果について (2023 年度第 12 回国際文化学部教授会資料 (2024年3月25日)) 研究経過及び研究成果報告書 (2023 年度第 3 回国際文化学部教授会資料 (2023年6月13日)) FIC オープンセミナーの申請について (案) (2023 年度第 1 回国際文化学部教授会資料 (2023年4月18日)) FIC オープンセミナー企画申請書 (案) (2023 年度第 2 回国際文化学部教授会資料 (2023年6月13日)) FIC オープンセミナーの申請について (2023 年度第 3 回国際文化学部教授会資料 (2023年7月18日)) FIC オープンセミナーの申請について (2023 年度第 6 回国際文化学部教授会資料 (2023年10月17日)) FIC オープンセミナーの申請について (2023 年度第 9 回国際文化学部教授会資料 (2024年1月23日)) FIC オープンセミナーの申請について (2023 年度第 12 回国際文化学部教授会資料 (2024年3月25日))
--

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2023 年度大学評価結果総評】(参考)</p> <p>国際文化学部は、すべての年度目標に高い成果を挙げており、非常に高く評価できる。コロナ感染症の蔓延により中断されていた SA も既に一部復活できており、今後、1 つでも多くの同プログラムが再開されることを期待したい。</p> <p>また、2023 年度入学者からの 2 つのカリキュラム改革を軌道に乗せられたことも、執行部をはじめ、多くの教員の努力と調整の成果として高く評価できる。なお、2025 年度から導入予定の 3 年次編入学導入に伴う入試と該当者の履修プログラムについては、編入者の選抜方法や教育課程についての整備・検討が進んでいるとのことであるが、編入者が入学後のカリキュラムから遅れを取らないような制度構築を期待したい。</p> <p>教育・学習成果の把握については、演習・卒業研究等の成果について、演習ごとに卒業研究発表の達成率を把握する等の数値化の導入も検討に入れることを期待したい。</p> <p>本学部に進捗を早めてもらいたい点があるとすれば、大学院との連携が、執行部の連絡体制が整うという年度目標にとどまっている点である。3 年次編入者の大学院修士課程の進学を視野に入れるのであれば、より具体的な検討が始められるべきである。また、国際文化研究科からは他大学からの進学者や留学生が基礎理論や方法論などを十分に習得できていない場合に本学部で授業履修が可能とする制度についての要望が出されていることから、早急な検討の開始が望まれる。</p>
<p>【2023 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</p> <p>2023 年度大学評価結果総評の内容にそって対応状況を述べる。</p> <p>まず、新型コロナウイルス感染症の蔓延により中止となっていた SA をはじめとする各留学プログラムであるが、SA については 2023 年度にはロシアを除く 9 カ国 14 大学で再開された。ウクライナ戦争による影響で再開が不可能であった SA ロシアについては、2024 年度よりエストニアで実施することになった。SJ については 2022 年度より例年の実習地である長野県飯田市で再開したが、2023 年度についても同様に実施することができた。また、東南アジア各国で実施される海外フィールドスクールについては、コロナ禍により 2021 年、2022 年にはオンライン授業として実施されていたが、2024 年度よりフィリピンでの実施が予定されている。また、各演習が独自に行うキャンパス外でのフィールドワーク、ワークショップやゼミ合宿も実施されるようになり、コロナ禍以前の状態にほぼ戻ったと考えられる。その一方で、各留学プログラムに関しては、ウクライナやガザなどにおける戦争・紛争や、円安傾向に</p>

象徴される為替レートの変動に関連した世界経済の状況、地球温暖化や地震などの環境問題による影響が深刻となっており、その対応についていっそう議論を進めたい。また、2023年度より学部創設25周年関連事業委員会を中心に準備を進めてきた学部創設25周年関連行事が2024年度に開催される。

カリキュラム改革のうち、チュートリアルが廃止となった初年次教育に関しては、初年次教育を担当する各教員や関連する各委員会にその実施内容や問題点に関するアンケート調査を行ったが、今後も引き続き現状のプログラムについての調査の継続、修正案の提言が必要である。今年度までは現行のプログラムを継続した上で問題点について精査をし、その上で必要があれば改革について検討したい。2022年度より議論を重ねてきた2027年度カリキュラム改革に向けた開講科目見直し方針については、実質的な改革の段階に入る。2025年度入試より導入される3年次編入学および導入に伴う入試制度と該当者の履修プログラムについては2023年度に検討、整備を終え、実施に向けて準備を進めている。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、2020年以降はオンラインで実施されていた演習であるが、現在ではほぼ対面により、キャンパスで実施されている。2023年度には学部演習・卒業研究運営委員会の主導で学部ウェブサイトにて各ゼミの紹介記事を掲載、また同委員会により2022年度に再開を図った演習（ゼミ）見学や演習説明会は、2023年度にも継続して実施された。また、カリキュラム改革に伴うスリム化の議論の中で、これまで議論をする機会の少なかった演習に関して、適切な開講クラス数などに関する議論が始まっている。2023年度大学評価結果総評で指摘のあった演習ごとの卒業研究発表の達成率を把握する等の数値化の導入であるが、国際文化学部の教育科目は情報、表象、言語、国際社会の科目群があり、その研究分野の幅が広く、また各演習の成果を示す方法についても卒業論文、卒業作品制作など一定ではないため、演習の達成率に関して一つの評価基準を定めて評価することは困難である。そのため、国際文化情報学会などの各演習の研究発表の場で、それぞれの演習の研究成果の特質について教員が相互に確認し、それぞれの研究に関して一律の評価が可能であるか議論する必要がある。

指摘されている大学院との連携に関しては、まず、学部生の研究科授業（「修士論文演習」を除く全ての授業科目）の見学が2023年9月20日～10月3日の期間に実施された。次に、2021年度第6回国際文化学部教授会において、国際文化研究科の科目を担当している教員が学部で担当している「外国語アプリケーション」科目を国際文化研究科の学生が大学院科目「外国語実践研究」として履修できる制度が承認され、同年度より実施された。同制度は他大学から国際文化研究科に一般入試や外国人入試で入学した修士課程の学生に限定されたものであったが、2023年度第2回国際文化学部教授会において内部進学者についても受講できる改正案が承認された。さらに、学部及び研究科との共同企画については、2023年度より内容の検討を開始し、2024年度にはFICオープンセミナーとして、複数の専任教員による研究発表会が順次実施されることになった。研究科との連携は順調であるが、今後についても連携をさらに強化していきたい。

2023年度については、各留学プログラムの再開を中心に新型コロナウイルス感染症下から急激な教育環境の変化となり、昨年度来その対応に教員や学部事務職員に追われる状況となっている。それら変化への対応が、教員や学部事務職員の過重な負担にならないよう執行部や各委員会は取り組みを計画的に進め、年度目標の達成と業務に関わる環境整備の両立について十分に検討していく。

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5④アセスメントポリシー（学習成果を把握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5⑤アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。		

Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<p>4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>S（さらに改善した又は新たに取組んだ）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>前述（「4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。」及び、「II 改善・向上の取り組み1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応」への回答）のように、チュートリアル廃止後の初年次教育の取り組みに関して、廃止以降の初年次教育の柱となる国際文化情報学入門を担当する教員及び関連する各委員会に、その実施内容や問題点に関する初年次教育アンケートを実施し、その結果を教授会で共有した。 「授業科目のスリム化の実施計画について」（2021年度第9回国際文化学部教授会）の方針に基づき、カリキュラム改革委員会において議論した。教授会において議案「重点確認対象科目の担当者変更・休講・代講の取り扱いおよびノルマコマの確保について」、「2027年度カリキュラム改革に向けた開講科目見直し方針について」（第8回国際文化学部教授会（2023年12月12日））が審議された。</p>		
<p>4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A（概ね従来通りである又は特に問題ない）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>S（さらに改善した又は新たに取組んだ）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>前述（「4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。」の回答部分）の通り、授業改善アンケート、入学前アンケート、卒業生アンケート結果を基に、2023年12月5日に学生モニター制度を利用した学生モニターを実施、初年次教育（チュートリアル、国際文化情報学入門、情報科目）、留学制度について（SA、派遣留学その他）について学生からの意見を聴取し、今後の対応について公開した。</p>		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<p>5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>S（さらに改善した又は新たに取組んだ）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>前述（「II 改善・向上の取り組み1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応」の通り、2025年度入試より導入される3年次編入学および導入に伴う入試制度と該当者の履修プログラムについては2023年度に検討、整備を終え、実施に向けて準備を進めている。</p>		

また、総合型選抜の実施についての点検、特別入試、一般入試の現状を考慮し、それぞれの募集人員の点検・調整を行なった。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S (さらに改善した又は新たに取組んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
<p>前述(「Ⅱ 改善・向上の取り組み 1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応」への回答)の通り、学部及び研究科との共同企画について2023年度より検討を開始し、2024年度にはFICオープンセミナーとして、専任教員による研究発表会が順次実施されることになった。同じく前述(「基準9 社会連携・社会貢献 9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。」への回答)の通り、学部主催の企画であるFICオープンセミナーについては、上記の研究科との共同企画を含め5回開催され、その記録が掲載された学会誌「異文化」が国際文化情報学会のウェブサイトにて現在公開されている。</p> <p>キャンパスで実施する対面授業や研究会議、キャンパス外での研究活動が再開される中で、緊急の対応が迫られるケースが増えたため、2023年度第8回教授会(2023年12月12日開催)の前に、教職員参加による「ボランティアセンター・総務部庶務課合同企画 国際文化学部SD「とっさの時の心配蘇生・非常用階段避難車の紹介」を実施、AEDを使った訓練を行なった。</p>		
6.3②学部内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S (さらに改善した又は新たに取組んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
<p>前述(「基準9 社会連携・社会貢献 9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。」への回答)の通り、社会連携・社会貢献に関する教員への年度末アンケートを行い、各成果について教授会で共有した。</p> <p>また、本基準6.3①で示した学部主催の企画であるFICオープンセミナーについては、教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みであると同時に教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための組織的な取り組みでもある。</p>		

Ⅲ 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	理念・目的
中期目標	国際文化学部の理念・目的に掲げる人材像が明確になり、理念・目的の見直しの是非を判断できるようになる。
年度目標	卒業生及び同窓会会員に関する実態を把握する。

	達成指標	学部の同窓会を含む卒業生の名簿が整備される。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	コロナ禍でオンライン実施となっていた同窓会総会を12月に対面で開催、学部委員である同窓会幹事を通じて会則や会計を含めた同窓会の現状を把握した。同窓会名簿に関しては、同窓会幹事による調査によって、同窓会名簿の一部資料の欠如が判明し、卒業生や同窓会会員の実態把握が難しい状況になっていることが確認された。調査を通じて同窓会イベントの出欠票の一部が見つかり、同窓会幹事が保管することになった。一方、2023年度以降は同窓会は入会無料となり、HPから氏名とメールアドレスを登録することで入会できるようになったため、同窓会会員の情報は同窓会会長経由で把握できるようになることが確認された。また、同窓会企画として卒業生5名による就職セミナーが12月に実施された。
	改善策	2022年度の年度目標・達成指標である卒業生及び同窓会名簿作成については、2023年度以降は同窓会で把握できるようになったが、2022年以前については同窓会幹事の調査により全体を把握することが困難であることがわかったため、卒業生や同窓会会員の実態については演習経由での調査など、他の方法を検討する必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	同窓会総会を状況に留意しながら対面で開催し、同窓会幹事を通じて同窓会会則や会計に関する現状把握ができたこと、また2023年度以降は同窓会入会が無料となり、登録が簡便になったことで同窓会会員情報が把握しやすくなったことは高く評価できる。一方で、2022年度以前の卒業生および同窓会名簿に関しては全体の把握が困難であることが明らかになった。今後も継続して名簿整理による卒業生の実態把握をすることが、学部の理念・目的に沿った人材像の明確化にもつながると考えられる。
改善のための提言	2022年度以前の同窓会会員情報の把握が困難であること及び同窓会名簿や資料の欠如が何に起因するものなのかを同窓会会員に報告することが望ましい。その上で、2022年度以前の卒業生や同窓会会員の実態把握調査を実施するのが良いのではないか。	
	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
	中期目標	2021年度の将来構想策定会議で各委員会から出された提案を吟味し、授業科目のスリム化実施計画をふまえた必要な改革を講じる。
	年度目標	スリム化により実施されたチュートリアルに代わる各初年次教育策について評価する。
	達成指標	各初年次教育策が教育課程全体の中でどのような効果が見込めるのか検証する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2022年度に承認された新たな初年次教育策に関する具体的な取り組み内容や成果、次年度に向けて考慮すべきことなどの実施成果に関するアンケートへの回答を初年次教育の各担当者に依頼、国際文化情報学入門の各科目群教員（総括及び言語文化、情報文化、表象文化、国際社会）、学部FD委員会、情報文化科目群、表象文化科目群の各担当教員から回答があった。また、国際文化情報学入門担当者からは「レポートの書き方」と「文献検索 基礎マニュアル」理解度チェックの実施結果が共有された。これらアンケートの結果について2024年2月20日の教授会で共有した。また、7月に開催された自己点検懇談会において国際文化学部学部長より各学部の学部長に各学部の初年次教育についての計画や実施内容についての質問がされた。
	改善策	2年目となる2024年度にも調査を継続し、今後の教育効果の検証に繋げる必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	2023年度より廃止されたチュートリアルに代わる初年次教育について、関係する各担当者が内容を検討した上で実施したこと、またその結果をアンケート回答として報告し教授会で共有したことにより実施内容が確認できたことは高く評価できる。一方

		で、従来の初年次教育と同等の取り組みになっているかどうかは現状では十分な評価できるとは言えない。継続的な状態の把握と各年次における影響を評価をすることで、より具体的な初年次教育の検証に繋がることを期待する。
	改善のための提言	アンケートは結果を共有するだけでなく、そこから評価できる点や問題点を整理し、改善に繋げる必要がある。また、初年次教育の成果はすぐには顕在化しないため、今後継続して年次毎にその影響や成果、改善点等を検討する機会を設けることが望ましい。
	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
	中期目標	2021年度の将来構想策定会議で各委員会から出された提案を吟味し、授業科目のスリム化実施計画をふまえた必要な改革を講じる。
	年度目標	スリム化実施計画に関する活動内容及びスケジュールの検討をする。
	達成指標	過少受講人員科目の現行ルールの実用を開始するとともに、カリキュラム改革に向けた開講科目見直し方針を決定する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	スリム化実施計画の2年目となる2023年度の課題である過少受講人員科目のルールの実用開始および2027年度のカリキュラム改革に向けた開講科目見直し方針について、9月に開催されたカリキュラム改革委員会で議論し、10月の教授会で承認された。また重点確認対象科目の受講者増を図る措置に関する各科目群会議及び重点確認対象科目の担当者変更・休講・代講等の取り扱いについて11月の同委員会で検討され、12月の教授会で承認された。これらにより、年次計画における2023年度に割り当てられた課題は対応を完了した。2月に開催された同委員会では中国語教職課程の存廃、2027年度カリキュラム改革における海外留学プログラムのあり方、演習・卒研運営委員会が演習・卒業研究に関する開講科目の見直しなどについて議論された。海外留学プログラムのあり方については、2027年度新カリキュラムにおけるSA改革の可能性を検討する新設委員会の設置が3月第1回教授会において承認された。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	2021年度の将来構想策定会議における提案をもとに今年度9月にカリキュラム改革委員会で議論した過少受講者人員科目のルール運用を議論し、10月教授会に上程・承認されたこと、また、重点確認対象科目に対する措置や担当者変更の取り扱いなど具体的な検討結果が12月教授会で説明・承認されたことは高く評価できる。2027年度に実施予定のカリキュラム改革に向けて、中国語教職課程の存廃、海外留学プログラムのあり方、演習・卒業研究の開講科目見直しなども議論されたこと、またSA改革の可能性など学部全体に影響する変革について適宜新設委員会が設置されたことにより、長期的な視点に立ったカリキュラム改革への議論と準備が具体的に進むことも期待される。
	改善のための提言	過少受講人員科目のルールが確認され、運用が開始された。今後カリキュラム改革に向けて、このルール適用によるスリム化実施計画の成果や影響を把握し、評価する手段を検討することが求められる。
	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
	中期目標	異文化体験・交流・理解に係る授業を含め、ICTを活用した様々な形態の授業が複数実践される。
	年度目標	異文化体験・交流・理解に係るICTを活用した授業での実践を収集する。
	達成指標	異文化体験・交流・理解に係るICTを活用した授業での実践の成果が共有される。
年度 末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2月に実施された年末アンケートを通じて4件の実例を把握し教授会で共有した。具体的にはフィリピンのアートNPO代表によるオンライン講演の開催(演習)、派遣留

報告		学中のゼミ生による派遣先のレポートやゼミでの議論への参加（演習）、1年生語学クラスでのメキシコの大学とのオンラインによる合同授業（スペイン語）、複数の授業で多読を目的として電子書籍を借りて読めるような設定を行う（フランス語）など、年度を通じての多様な実践が教授会で共有された。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	異文化体験・交流・理解に係る ICT を活用した授業での実践に関して、今年度実際に行われた事例を収集できたことは評価できる。また、その結果、多種多様な取り組みとその成果が教授会において共有されたことにより、モデルケースとして次年度以降の他授業にも大いに参考になることが期待できる。
	改善のための提言	単年度の事例報告に留まらないよう次年度以降も継続して事例を収集すること、また学習成果への影響や履修傾向など、異文化体験・交流・理解に係る ICT を活用した授業実践による影響把握の検討が望ましい。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		学部全体だけでなく授業や演習単位で行われる学習成果発表の機会と目的を明確にして、成果発表とその評価結果を共有し、今後活かせるようになる。
年度目標		授業や演習単位で行われる学習成果発表の成果を収集する。
達成指標		収集された授業や演習単位で行われる学習成果発表の成果が共有される仕組みを作る。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	コロナ禍ではオンラインで実施されていた国際文化情報学会について今年度は対面で実施された。各演習の研究成果が発表され、その概要が学会ウェブサイトでも共有された。また、2月に実施した年末アンケートを通じて授業や演習単位での学習成果発表について4件の事例を把握し教授会で共有された。具体的には大学内外のギャラリーでの展覧会やワークショップ（演習）や、オンラインによる公開卒論発表会（演習）、成果発表会をSJ研修地の高校や市民対象で実施（SJ）、実践社会調査法の授業におけるライフストーリー分析とドキュメント分析を使った研究結果を口頭と論文で発表など多様な取り組みが実施された。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	授業や演習単位で行われる学習成果発表の機会として、国際文化情報学会が対面で実施された上で研究成果の共有の仕組みとして学会ウェブサイトが構築・運用されたこと、及び他の事例をアンケート調査により収集し、多様な取り組みが教授会で共有されたことは高く評価できる。
	改善のための提言	次年度以降も、授業や演習単位で行われる学習成果発表の機会に関する事例を収集し、その成果とともに継続的に共有されることが望ましい。
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		SAの今後や3-4年次の学部教育の在り方を踏まえた3年次編入学を2025年度から導入できる。
年度目標		3年次編入学制度について具体的な実施に関する検討をする。
達成指標		3年次編入学制度実施に向けての課題を把握する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2025年度開始の3年次編入制度に関して、学部事務と執行部で実施に向けた各種準備のスケジュールを立てたところ、現時点では大きな課題はないことが分かり、スケジュールに沿って準備を進めている。その一環として、出題・採点・面接で必要になる委員の数などが教授会で共有された。
	改善策	—

	質保証委員会による点検・評価	
	所見	2025 年度開始の 3 年次編入学制度について実運用に向けた具体的な検討を行い、準備が進んでいることは高く評価できる。
	改善のための提言	引き続き 3 年次編入学制度実施の必要業務の具体化や人員配置に関する検討を続け、準備することが望ましい。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	SA の今後や 3-4 年次の学部教育の在り方を踏まえた 3 年次編入学を 2025 年度から導入できる。
	年度目標	改訂されたことを機会として学部のポリシーに関する認知度を高める。
	達成指標	改訂されたポリシーを周知徹底し、学部内で共有する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2022 年度第 9 回教授会で承認された 3 年次編入学制度を見込み、アドミッション・ポリシーが改訂された。4 月の新入生オリエンテーションでは「国際文化学部で学ぶこと・目指すことーディプロマ・ポリシーと学部での学びー」というタイトルで、ディプロマ・ポリシーの周知が新入生に対して行われた。
	改善策	学部内だけではなく、学外への周知方法やその範囲についても検討したい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	本学部のアドミッション・ポリシーが改訂され、3 年次編入学制度について 4 月の新入生オリエンテーションで周知されたことは評価できる。一方で、この情報が必要なのは主に他大学・他学部の学生であるため、次年度以降は対外的な改訂変更周知についても検討することを期待する。
	改善のための提言	3 年次編入学制度などの具体的な学部教育体制の変更や、本学部のアドミッション・ポリシーが改訂されたことを、学部 HP やパンフレットなど対外メディアに記載した上で、周知されていることを教授会で適宜共有しても良いのではないかと。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	学部教育の質の向上を踏まえながら大学院との有機的な連携を具体的に深められる。
	年度目標	学部と研究科が定期的に意見・情報交換する仕組みを整備する。
達成指標	年度目標に掲げられた仕組みを整備する一環として、新任教員の研究セミナーについて学部・大学院の共同開催を検討する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	研究科・学部合同による執行部会議が春学期、秋学期にそれぞれ 1 回、合計 2 回開催され、授業見学や単位履修、合同企画の内容に関する意見交換が行われた。また、合同会議では新任教員の研究セミナーの共同開催について検討され、2024 年度に 2 名の新任教員による研究セミナーを研究科と学部の合同共同開催とする企画案が確認された。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	研究科・学部合同の執行部会議が各学期に開催され意見交換が行われていること、またその成果の一環として 2024 年度に研究科と学部の合同共同開催セミナーが企画されたことは評価できる。今後も学部と研究科が意見・情報交換できる仕組みを維持されることを期待する。
	改善のための提言	学部教育の質の向上のための大学院との有機的な連携を図るのであれば、その連携結果を確認できる仕組みを検討することが望ましい。
評価基準	学生支援	
中期目標	コロナ禍で SA を実施する場合の学生支援の在り方や注意事項を蓄積して、スムーズなプログラム実施が行えるようになる。	

年度目標	2020年度からのコロナ禍でのSA検討記録について確認する。	
達成指標	2020年度からのコロナ禍でのSA検討記録を資料として収集する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2019年度後半以降のコロナ禍におけるSAに関する対応やその検討記録に関して、教授会及びSA委員会で議論された各資料を収集しGoogle Driveにアーカイブを作成する作業を開始した。
	改善策	今後も資料の収集を継続させ、2024年度には資料を教授会メンバーで共有、その内容を検証するとともに、今後同様の事態が発生した場合に備えて資料を整理し、対応策の検討に繋げる。一方、収集した各資料を公開する際には個人情報の取り扱いや情報活用範囲について十分に留意する必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コロナ禍におけるSA関連業務の記録を収集する作業が開始されたことは評価できる。将来的な情報活用に向けて、情報が適切に整理・運用されることを期待する。
改善のための提言	コロナ禍でのSA検討記録を収集するにあたり、個人情報の取り扱いや情報活用範囲をあらかじめ整理した上で共有されることが望ましい。また学生支援の在り方から、今後数年間かけてSA再開後に確認・審議された現象や事例を注意深く監察し、直接交流の中断の影響などSA中断前後の変化や特有の問題を見極めることも必要かもしれない。	
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	専任教員が自ら実施している社会貢献や社会連携を把握し、共有することで、学部教員がさらなる社会活動に繋がられるようになる。	
年度目標	専任教員が実施している社会貢献や社会連携の実態に関する情報を共有するための環境を整える。	
達成指標	専任教員が実施している社会貢献や社会連携に関する成果を共有するシステムを構築する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	社会貢献や社会連携に関する成果を年末アンケートを通じて6件の実例を把握し、教授会で共有された。具体的には、東京ビックサイトで開催されたデザインフェスタでのワークショップの実施、フィリピンで開催された国際展VIVA EXCONでの作品発表、SJの関連としてSENA（三遠南信地域連携ビジョン推進会議）サミットにおけるコーディネーターや長野県飯田市の委員会委員、東京国際フランス学園での高校生向けの進路・職業相談会講師、NGO/NPOと共催によるFICオープンセミナー（ミャンマーの軍事クーデター後の日本の投資・援助について、開発協力大綱改定における市民社会の役割について、福島原発事故から13年経った脱原発の現状など）が報告された。また、現在国際文化情報学会のウェブサイトが更新され、国際文化情報学会で発表された研究タイトルや学部学会誌の閲覧が可能となった。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	専任教員が実施する社会貢献や社会連携事例をアンケートを通じて収集されたこと、またその結果、多様な事例が教授会で共有されたことは評価できる。
改善のための提言	専任教員が実施する社会貢献や社会連携に関する成果を共有する仕組みとして、年度末にまとめてではなく随時受付可能な仕組みにする方が、入力や報告がしやすくなるのではないかと。	
【重点目標】 スリム化により実施されたチュートリアルに代わる各初年次教育策について評価する。 【目標を達成するための施策等】 ・国際文化情報学入門など初年度教育策を実施する教員からの現状報告		

<ul style="list-style-type: none"> ・ラーニング・サポートの実施とその成果に関する現状報告 ・2年生以降の教育体系との連携に関する各科目群会議からの現状報告 ・各初年度教育策の課題の整理と今後の対応 ・他大学や他学部の初年度教育に関する情報収集と検討事項の整理
<p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>2022-2025年度中期目標の2年目である2023年度は、1年目である2022年度の課題を引き継ぎ、より具体的な各項目の検証や実施が中心となった。まず、学部委員の同窓会幹事による卒業生名簿に関する調査結果により同窓会員に関する情報管理に関する不備が明らかとなり、それら問題点を改善し卒業生や同窓会メンバーを把握するための情報共有を円滑に行うことが重要であることが確認された。また、初年次教育策の成果に関するアンケート調査が実施され、具体的な取り組み内容や成果、次年度への考慮事項が共有された。カリキュラム改革委員会で2023年度の課題が議論され、重点確認対象科目の受講者増を図る措置などが検討された。国際文化情報学会など、これまでオンラインで行われていた様々な研究発表の多くが対面形式に変更された。来年度の編入学制度の実施に向けた準備が始まり、必要事項が検討された。2019年度後半以降のコロナ禍での対応に関する検討が行われ、Google Driveにアーカイブが作成された。また、教員や学生の活動に関する情報も共有され、国際文化学会のウェブサイトが学部における研究成果の閲覧が可能なものに更新された。これらの対応を継続させ教育プログラムの運営においても、学生や教員からのフィードバックを積極的に受け入れ、改善に向けた努力を継続する必要がある。教育プログラムやカリキュラムの改善に向けた取り組みや、教員と学生の交流を促進する活動は今後より重要となると考えられ、これらの取り組みにより学生の学びや学部教育の発展に繋げたい。</p>

IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	国際文化学部の理念・目的に掲げる人材像が明確になり、理念・目的の見直しの是非を判断できるようになる。
年度目標	卒業生及び同窓会会員に関する実態調査を継続する。
達成指標	卒業生の情報把握に関する具体的な方法の目処をつける。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	2021年度の将来構想策定会議で各委員会から出された提案を吟味し、授業科目のスリム化実施計画をふまえた必要な改革を講じる。
年度目標	チュートリアル廃止後の各初年次教育策に関する評価を継続する。
達成指標	各初年次教育策の教育課程全体の中での効果に関する課題について検証する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	2021年度の将来構想策定会議で各委員会から出された提案を吟味し、授業科目のスリム化実施計画をふまえた必要な改革を講じる。
年度目標	策定された開講科目見直し方針に基づき、スリム化実施計画を準備する。
達成指標	スリム化実施計画に関する具体的な実施スケジュールと準備を行う。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	異文化体験・交流・理解に係る授業を含め、ICTを活用した様々な形態の授業が複数実践される。
年度目標	異文化体験・交流・理解に係るICTを活用した授業での実践事例を収集する。
達成指標	異文化体験・交流・理解に係るICTを活用した授業での実践の成果を共有する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学部全体だけでなく授業や演習単位で行われる学習成果発表の機会と目的を明確にして、成果発表とその評価結果を共有し、今後活かせるようになる。
年度目標	授業や演習単位で行われる学習成果発表の成果を収集する。
達成指標	収集された授業や演習単位で行われる学習成果発表の成果が共有される仕組みを作る。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	SAの今後や3-4年次の学部教育の在り方を踏まえた3年次編入学を2025年度から導入で

	きる。
年度目標	3年次編入学試験を実施する。
達成指標	実施した3年次編入学試験制度の問題点や課題を把握する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	SAの今後や3-4年次の学部教育の在り方を踏まえた3年次編入学を2025年度から導入で きる。
年度目標	再開したSAの課題を検証し、今後のSAの在り方について検討を始める。
達成指標	SAの課題を分析し、課題や問題点を共有する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	学部教育の質の向上を踏まえながら大学院との有機的な連携を具体的に深められる。
年度目標	学部と研究科の連携を継続する。
達成指標	連携して行う授業や研究発表を精査し、充実させる。
評価基準	学生支援
中期目標	コロナ禍でSAを実施する場合の学生支援の在り方や注意事項を蓄積して、スムーズなプ ログラム実施が行えるようになる。
年度目標	新型コロナウイルス感染症下でのSAに関する学部の対応記録を資料として収集する。
達成指標	収集された新型コロナウイルス感染症下でのSAに関する学部の対応記録資料を共有する 仕組みを作る。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	専任教員が自ら実施している社会貢献や社会連携を把握し、共有することで、学部教員が さらなる社会活動に繋げられるようになる。
年度目標	専任教員が実施している社会貢献や社会連携の実態に関する情報共有について、継続して 行う。
達成指標	専任教員が実施している社会貢献や社会連携に関する経年の成果を共有する仕組みを作 る。
<p>【重点目標】 再開したSAの課題を検証し、今後のSAの在り方について検討を始める。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症下でのSAに関する学部の対応記録資料として収集し、共有する。 ・戦争や紛争などの社会情勢、為替レートの変化などに関連した経済状況、地震や温暖化による環境変 化の急激な変化への対応について検討する。 ・これまでのSA参加基準について再検討する。 ・SAにおける文理融合的な内容について模索する。 ・国際社会人養成におけるSAの役割について、再検証を行う。 	